

日本と象牙の関わり



知っていますか？

日本はワシントン条約から認可された合法取引のみで過去に象牙を購入しています。そのため、国内にある象牙は本来全て合法のものであるはずなのですが、現存の象牙の管理システムが古くあやふやで、**違法の物が混ざり込む隙があるため、違法の象牙が日本に入り込んで来ていることが問題になっています。**



PHOTOS BY: 左) TEARS OF THE AFRICAN ELEPHANT 右) GO YAMAGATA

より良い物を求める日本人は密猟や違法取引の実態、テロ組織とのつながりなどを知らずに、何気なく印鑑などを購入する際にお店で「良いもの」として勧められたら購入しているかもしれません。現状日本は世界の象牙の消費国のトップ10に入っています。そして、マルミミゾウの固い象牙を三味線のバチのために好んでいるのも世界で唯一日本のみです。1本12kg以上の大きな象牙1本からバチ1本しか取れません。

日本が消費国である限り、ゾウの問題は決して他人事ではありません。

大きな誤解: 牙は生え変わらない！

売っている象牙は自然に抜け落ちたものと誤解されがち。人間の永久歯と同じ、一度しか生えてきません。

ゾウを殺さないで象牙は取れません。

ゾウの牙は2歳くらいの時によろやく生え、事故で折れたりしない限り生涯同じ2本が伸び続け、生え変わることは絶対にありません。牙は歯の変形で、神経が通っており、ゾウにとっては大事な道具。根っこを食べるとき土を掘り返したり、木の皮を剥いたり、ミネラルを採るために食べる土や塩を砕いたり、様々な使い方があります。曲がり具合で右利きか左利きか見分け付くこともあります。そんな牙は、ゾウを殺して頭を割らないと取れません。だから象牙が必要となると、その分ゾウを殺さないで象牙は絶対に収穫できません。国際取引が禁止されているのにも関わらず、象牙需要が減らないため、密猟でゾウが犠牲になっているのです。



PHOTO BY: TEARS OF THE AFRICAN ELEPHANT